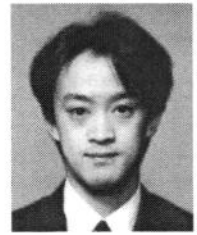


査読のメリット

向川 康博 (大阪大学)



査読依頼のメールが来ると、「またか」と憂鬱な気分になってしまう方も多いのではないのでしょうか。査読を始めると、関連文献を芋づる式に調査しなければならない場合もあり、ずいぶんと手間がかかります。それにも関わらず、その労力は匿名として扱われ、あまり評価してもらえない地味な仕事です。

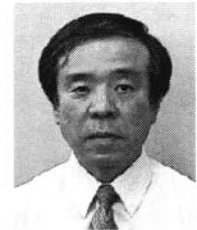
この度は、「査読委員としての貢献」として活動功労賞を頂き、査読という地味な作業を表舞台で評価して頂いたことを光栄に思います。私は「査読の依頼は原則として断らない」をポリシーにして、査読依頼をほぼすべて引き受けるようにしていたところ、気が付けばかなりの論文を担当していたようです。

査読という仕事は確かに面倒ですが、しっかりと論文を読むチャンスでもあります。普通に読むのではなく、査読となると、とにかく問題点を見つけてやろうという目的もありますので、かなり丹念に熟読します。新規性に異議を唱えるのであれば、関連文献の調査も欠かせません。結果的に、査読をこなすことで、自分自身の勉強になっているように思います。専門分野に近い未発表の論文を拝見する機会を与えられたと考えると、査読のメリットも捨てたものではありません。

幸いにも私は功労賞を頂きましたが、裏方では多数の査読者が多大な貢献をされています。私を含め、多くの査読者が投稿論文を拝見することを楽しみにしていますので、皆様の積極的な論文投稿をお待ちしています。

英文論文誌編集委員を務めて

尺長 健 (岡山大学)



この度、ISS 英文論文誌編集委員としての貢献により、ISS 活動功労賞を戴いたことを心から感謝致します。私は、2002 年から 2006 年の期間、編集委員を務めました。この間、私の査読依頼を快くお引き受け戴いた多くの皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。さて、私が期間中に担当した論文の中には、様々なものが含まれていました。斬新さに感嘆するような論文や、著者の苦労が推察される力作に巡り合うのは、編集委員として大きな喜びでした。これは忙しい中、査読戴いた方々にとっても同じだと思えます。一方、投稿論文の中には書き方や英語表現に大きな問題があるものも相当数ありました。投稿期限がない筈なのにどうして推敲をもっと行わないのだろうかと思うこともありました。また、共著者の中に論文を書き慣れている方が含まれているのに、明らかにチェック不足のものもありました。あるいは指導教員に知らせずに学生が投稿したのかもしれませんが、査読がボランティア活動によっていることを考えると、見過ごせないことです。投稿前に推敲を徹底して欲しいというのが編集委員としての偽りのない感想です。これに関して、最後に、ある著名な(米国滞在期間が長い)先生に伺った話を紹介しておきます。先生は、優れた英文論文を数多く発表され、私から見ると殆どネイティブな方なのですが、習慣として英文論文を投稿する前に、必ずネイティブスピーカーによる添削を受け、その後、納得いくまでチェックしてから投稿されるそうです。このような見識と習慣が世の中に広まることを願う次第です。